

○発表の概要

地域とともにある学校を目指すための教頭の関わり

ー学校運営協議会の設立とその充実を通してー 提言：茨城県小美玉市教頭会

学校運営協議会の運営方法や運営推進に、教頭がどのように関わるべきかを研究し、運営方法や効果的な教頭の関わり方を考察されていた。

学校運営協議会委員は、各校とも15名で構成されており、学校評議員を軸としながら、幅広い職種や年齢層に声をかけて選出されている。教頭の役割は、委員への案内状作成と送付、要項や資料作成、名札の準備、茶菓準備、学校支援ボランティアとの連絡調整、委員やボランティアが使用するオリジナルキャップの制作のためのデザイン考案や選定、業者への発注、配付等多岐にわたる。毎月行われる教頭会で各校の成果や課題等の情報交換をしている。各校で学校運営協議会委員と教職員との具お堂研修会を開催し、学校運営協議会への理解を深めている。

○質疑及び協議

(グループでの話し合い・各グループの発表)

- ・地域教育コーディネーターが会計年度職員として配置されていて連絡調整をしてもらえる自治体がある。
- ・運営協議会のメンバーは、元PTA会長、校医、児童センター長、PTA会長、民生委員、学識経験者等がいる。校長の推薦で市町教育委員会が任命している。
- ・運営協議会は年3回開催している。
- ・地域や運営協議会で提言されたものをどうするか、コロナ禍前の活動を戻すのか等苦労している。
- ・地域のニーズをしっかりと受けとめることが大切である。
- ・教頭が地域とバランスを取っていくことが大切である。
- ・「持続可能な」を目指す教頭が中心となっておこなうのは難しいので、担当者をつくり研修等を行うと良い。
- ・学校が地域にやってもらいたいことをきちんと伝える。情報共有する。
- ・小中の9年間を見据えて進めていくと良い。
- ・学校運営協議会の会長さんに子ども達や教職員の前で話をしてもらった学校がある。
- ・教頭の負担が増えないように役割分担をすることが重要である。

(指導助言)

- ・教育課程とつなげ、それを地域に伝える。
- ・形をつくるよりもつながりをつくる。コーディネーターの役割や人選が大きなポイントとなる。
- ・地域の信頼を得る。地域の思いを知る。
- ・学校も地域もプラスになるようにする。貸し借りの関係ではない。
- ・学校と地域の一体的な取組となるように、ビジョンを共有する。

4 分科会「組織・運営に関する課題」

(提言1) 地域とともにある学校を目指すための教頭の関わり

報告者 江津市教頭会所属

○発表の概要 小美玉市教頭会

・子どもたちが、変化の激しい社会を生き抜く力を身に付けるために、学校と地域はパートナーとして取り組む。

【学校運営協議会の運営推進に教頭がどのように関わるべきか考察】

【内容】

- ① 学習支援 ・読み聞かせ 書道等専門家の指導
- ② 環境推進 ・遊具のペンキ 除草
- ③ 安全安心の確保・災害教室 見守り活動
- ④ 文化・伝統の継承・納場っ子まつり 地域の伝統芸能 等々を通して教頭がパイプ役となる

☆成果

- ・教頭中心となって連絡・調整を行うことにより当事者意識高まる
- ・社会教育主事に参加してもらう・コミュニティスクールの意識が高まった。

☆課題

- ・教頭の負担が大きい・年齢層が高い→若い層がいないので今後声掛け・現在の取組をどう持続可能にしていくか

【質疑及び協議】

- ・CS 担当教員を校務分掌に配置すると持続可能になる。教頭一人が背負うのではなく、全体で上手に役割分担をしていくことが大切ではないか。
 - ・地域の良さに目を向けながら、子ども達にとって良いことや、地域が望むことや学校が望むことをすり合わせる。
 - ・事業整備として、R6 年度国は予算を配置した。活動に関わる補助金を設定している。事業と活用しながら配置をしていく。高知県では県が促しながら設置を100パーセントにしていくような働き方を促すことで、全校CS 設置となった。
 - ・設置が目的ではなく、設置することのよさを発信していくことなども大切。
 - ・ウインウインの関係が崩れたら不平不満が出てくる。ともに作り上げていくような教育活動ができないか、考えていく。児童生徒の成長が確認される、地域が盛り上がっていくというような活動になっていくように。地域がどんどん元気になっていくように、本来の意味を確認。
 - ・持続可能にするためには教頭が一人でやっていると大変である。推進員の配置は大切。連絡調整がすべて教頭ではなりたたない。校務分掌に位置付けるなど教員から数名配置しておく。
 - ・何もかも地域と連携ではなくスリム化し大事なところを残す。形をつくるよりもつながりをつくる。
 - ・教頭の役割はコーディネータではあるが、人選は大きなポイント。つながりながら人選もしていく。
- ① 地域の信頼を得る。地域の思いを知る。
 - ② 学校も地域も+になるように 教育課程に位置付ける。自分たちの活動の継続でなければならない。持続可能なような取り組みをしていく。
 - ③ 学校と地域の一体的な取り組み ビジョンの共有
それぞれの役割を確認をすることが大切

第4 分科会「組織・運営に関する課題」

(提言2) 楽しい学校・学級づくりを目指す組織・運営 トルネードマネジメント

報告者 江津市教頭会所属

○発表の概要 丸亀市教頭会

・トルネードマネジメントの展開の実践を通して

【内容】

・帰属意識(学校への愛着心を育てる)のために、自分たちの学校をどう思っているのかなというアンケートをとった。いろいろな先生方のアンケートからどういった取り組みをしようか考えていった。

・生徒の帰属意識を高めるために・自己有用感につながる活動を行う。

・行事ことの担当をきめ、OJTにおける研修を行う。

・南学校群での組織をつくる。毎月の定例会

・市でベクトルをそろえる。学校群での取り組みに一体感

・教頭会の内容 地域連携教 小中連携教育の要は教頭として捉える。

(展開) 教頭⇔学年主任⇔担任 教頭⇔生徒会主担当⇔副担当 各校教頭⇔児童会・生徒会

地域⇔教頭⇔担当教員 教頭⇔地域コーディネーターウ⇔学校支援ボランティア

中学校羊頭⇔小学校教頭

【成果】

・教職員の帰属意識の高まり・頼もしい若年教員が増える。

【課題】

・働き方教育につながる地域の協力・教員のワークライフバランスがまだ十分ではない。

【質疑及び協議】

・トップダウンではなくボトムアップが教頭には大事。

・帰属意識→当事者意識を高める。そのためには先生自身のプランニング意識を高めるためのコーチング。新しいことを加える。帰属意識を育てるにはそれぞれの得意分野をしっかりと把握する。

・教頭会での協働、関係作りが安心につながる。

・OJTを進めていく中で自己有用感を育てる。

・先生たちを学校組織の中に巻き込んでいくか。

・帰属意識のずれはないか・・・それぞれのもつ帰属意識って？そこがそろっていないのでは？

【指導助言】

・うまく回っている組織には共通点がある。教頭会でも取り組むテーマについてつめを行う。

・帰属意識に目を向けたとき、意識がうすい人がある。中心人物 がベクトルを合わせる。定期的なミーティング「目的・方向性」をそろえる。

・管理職ミーティング・管理職ミーティングをそれぞれにいきわたらす。中心人物をうまくまわす。

・なんのために誰を巻き込むのか、そしきのトルネードを上手に行う。

・組織が昔と変わってきている。今までとはいかない。自分が全て背負い込まない。

○いつも笑顔で対応 ○話しかけやすい雰囲気づくり ○すべての教職員が大事な戦力

○アンテナを高くする。○日常的な教職員との対話 ○子どもたちの育ちを感じる。

○学校改善プランにまとめる。○納得と共感を得る。誰の力を借りるか。巻き込んでいく・・・。

自分がやった方が早いと思うかもしれないが、いろいろな人による。トルネードマネジメントを行う。

第4分科会「組織・運営に関する課題」

(報告者) 邑智郡教頭会所属

発表の概要

【提言1】

「地域とともにある学校を目指すための教頭の関わり」

－学校運営協議会の設立とその実践を通して－

ご提言:小見玉市教頭会

- ・ 学校運営協議会(以下 CS)設立までの取り組み、CS の人選及び規約制定に向けての教頭の動き
- ・ 学校と地域の関係づくりに向けた教頭のマネジメント
- ・ 各学校における特色ある活動を教頭会で情報共有し、教頭自身の当事者意識を高める。

【提言2】

「楽しい学校・学級づくりを目指す組織・運営の在り方と教頭の役割」

－帰属意識を高めるトルネードマネジメントの実践を通して－

ご提言:丸亀市教頭会

- ・ 組織に対する教職員の帰属意識と資質・能力を高めるための管理職のリーダーシップについて
- ・ 校内におけるファンリテーターとの連携に向けた教頭の役割について
- ・ 地域別小中学校教頭会での情報共有及び連携活動について

協議内容

【提言1】

- ・ CS 設置、運営に向けた動きについては、市町教育委員会との連携が重要
- ・ 従来のような学校行事へ地域からの参加は、教職員の負担感が増す。整理、縮小しながら地域と連携を図ることが大切ではないか。
- ・ 各学校における教頭の負担をどのように解消すればよいか。
- ・ 転勤等で教職員が入れ替わる中で、持続可能な活動を推進するために何が必要か行政の協力も大切ではないか。

【提言2】

- ・ 管理職ミーティングがより重要だと感じた。
- ・ 教頭のマネジメントで、誰と取り組むことが最適か。
- ・ うまく回る組織の仕組み作りを大切にするためにも、教頭と教職員の普段からのコミュニケーションが大切になる。
- ・ トップダウンも必要だと思うが、ボトムアップとのバランスを図りながら、学校運営に取り組みたいと感じた。

全国公立学校教頭会研究大会(高知大会)報告

第4分科会「組織・運営に関する課題」

(報告者) 邑智郡教頭会所属

(1) 地域とともにある学校を目指すための教頭の関わり—学校運営協議会の設立とその充実を通して—

①実践発表について

○学校運営協議会の設立に向けて

「学習支援」「環境整備」「安全安心の確保」「文化伝承の継承」を柱に活動を行う。

○美野里中学校の取組

- ・協議会の会長が、協議会の目的などを子どもに説明する機会をもつ。
- ・活動する際に使用するオリジナルキャップ作り（一体感・所属感）

○教頭の役割

- ・協議会設立に関わって、教頭の業務（意義の周知・連絡調整等）の増加。

②協議について

○学校運営協議会の意義や必要性の周知について

- ・子どもや保護者と一緒に考える場づくり
- ・「主体的に取り組む子どもの姿が見られる」「地域が元気になっている」などの成果

○教頭の役割について

- ・推進委員を設けて役割分担を行うこと、教頭が全体を俯瞰できる立場にること、校務分掌の中に学校運営協議会担当を位置づけるなど。「形(体制)をつくる」→「つながりをつくる」

(2) 楽しい学校・学級づくりを目指す組織・運営の在り方と教頭の役割—帰属意識を高めるトルネードマネジメントの実践を通して—

①実践発表について

○トルネードマネジメントについて

- ・教頭—生徒会担当—生徒会副担当など、3人のファシリテーター（改革促進者）による巻き込みから組織マネジメントを展開する。

○南中学校の取組

- ・「南中プライド」というキーワードを**発案**し、生徒指導の方向性を示し、生徒のベクトルをそろえる…生徒指導主事
- ・「南中プライド」というキーワードを掲げ、**全ての教育活動の柱として**、学校としての方針を示す・・・校長
- ・「南中プライドシール」を作成し、**具体的な活動を提案**する・・・教頭
→生産性と協調性の向上、従業員のエンゲージメントの向上、心理的安全性と組織力アップへつながる

②協議について

○教職員のウェルビーイング

- ・ビジョンを提示し、詳細は先生方に任せる姿勢をもち、教職員が「自分は役に立っている」と感じられるような職場を目指す。

○人材育成に関わるマネジメント

- ・OJTの機会を積極的につくる。

○教頭会から市全体の取組へ

- ・教頭会からトルネードを展開し、市全体へ取組や帰属感を広げていく